

います。

○小関勝助議長 14番、高橋孝夫議員。

○14番 高橋孝夫議員 ありがとうございますました。

町田議員は、10分前にやめたいというふうに、私は5分前にはやめたいと思っていたんですけども、ちょっと長くなりました。

いろいろ答弁いただきましたけれど、ぜひ前向きに対応していただきたいと申し上げて、質問を終わらせていただきます。ありがとうございますました。

○小関勝助議長 ここで暫時休憩いたします。

再開は、3時10分といたします。

午後 2時50分 休憩

午後 3時10分 再開

○小関勝助議長 休憩前に復し、会議を再開いたします。

市政一般に関する質問を続行いたします。

### 竹田博一議員の質問

○小関勝助議長 次に、順位10番、議席番号6番、竹田博一議員。

(6番竹田博一議員登壇)

○6番 竹田博一議員 本日最後になりました。よろしく願いをいたします。

本定例会に当たり、通告しております2点について質問いたします。

平成26年の7月から長井市生活交通ネットワーク計画で、現状の市営バス3路線、長井蔵京線、致芳公立置賜総合病院線、平野公立置賜総合病院線を見直し、市営バスを9路線に拡張す

る計画であります。それにより市内全地区をできる限りカバーするバス路線を設け、これまでバス路線がなかった地域にも生活交通を確保し、幹線道路以外や市街地区においては、路線ならばバス停以外でも自由に乗りおけるフリー乗降制を導入することにより、自宅、目的地からバス停が遠く利用しにくいという問題を解消する計画であります。

伊佐沢地区においては、山交路線バスが廃止になったため、昭和60年から平成26年までの29年間にわたり伊佐沢住民バスを運行してまいりました。交通弱者を守るために、伊佐沢地区民はもちろん、日の出町地区からの協力を得ながら長期にわたり運行できましたことは、地区民の努力はもちろんのこと、本市の行政の温かいご支援があったからと思います。7月からは、新たに市営伊佐沢バスとして、月曜から金曜1日8便運行予定でありますことに地区民一同喜んでいるところであります。

7月から運行する市営バスについて、以下、質問いたします。

小学生の下校の安心安全について伺います。

現在、伊佐沢小の児童53人中22人が住民バスを利用しております。それは伊佐沢小学校の児童数が少ないゆえに、低学年にもかかわらず長い道のを1人で下校しなければならないためです。長い道のを1人で下校させることは、学童自身の安全と保護者にとっての安心が確保できないとのことから住民バスを利用している現状です。

冬期間以外の住民バス運行がない時期は、家族の誰かが忙しいのを都合して、下校のために迎えに出ている状況です。必ずしも迎えの都合ができる家庭ばかりではありません。例えば、共稼ぎ家庭、あるいは何らかの事情により都合できないときは、そのときは学童保育を利用せざるを得ない家庭もあると聞いています。幸い7月からは市営バスが通年運行の予定でありま

すので、その市営バスを小学生が利用することにより、下校時の安全安心が保たれると思います。小学生のバス利用について伺います。

次に、運賃の減免については、これまでどおりの制度を継続して、身体障害者手帳、療育手帳または精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている人、小学校入学前の者は全額無料であります。しかし、小学生においては半額とありますが、子育て支援の考え方から全額無料にすべきと思います。バス利用料金について伺います。

次に、南北中学生が利用しているスクールバス利用について伺います。スクールバス利用は、原則中学生に限定されておりますが、拡大利用の考えから、小学生も利用できないものかと考えています。大変難しい問題もあろうかと思いますが、ご所見を伺います。

次に、市教育振興計画について伺います。

平成26年2月27日の山形新聞の記事によると、「市教育振興計画案まとまる」とあり、2014年度から10年間、長井市の教育行政指針となる案がまとまりました。学校教育、生涯学習、生涯スポーツの3分野を包括した初の教育関連の総合計画で、市民にアピールしてきた長井の心を目指しているのが特徴とされています。

その中において、学校数については、今後10年間、現行の小学校6、中学校2を堅持すると明記されておりました。市内全6地区に小学校が一つずつある姿が理想だとする市民の考えを反映させたものとありました。この計画は、教育関係者や有識者の意見を聞き、教育委員会がまとめたものとありますが、その構成メンバーについてお伺いします。

私は、一般質問で、伊佐沢小学校が少子化の影響による学童の減少から、複式授業の実態についての質問をしてきました。格差のない教育、視野の広い学習の重要性を第一に考えなければいけないと思っています。そして、今後少子化が続く現状を考えると、長井小との合併をも

考えるべきではないかと質問しました。

市長は、保護者の意見を最大に重視しながら対応していかねばならないと、毎回のよう

に答弁されました。市長の考えに変わりはありませんか、お伺いするものであります。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴まことにありがとうございました。（拍手）

○小関勝助議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 竹田博一議員のご質問にお答えいたします。

竹田議員のほうからは、大きく2つご提言、ご質問をいただいたところでございます。

まず1点目の、7月から運行する市営バスについて、私のほうは、小学生の下校時の安全安心についてということの観点から、小学生を全額無料にできないか、またスクールバス、中学校のを小学生にも利用できないかということのご質問だというふうに思います。

まず初めに、長い間にわたりまして、竹田議員からもございましたように、伊佐沢地区で住民バスを独自運行いただいたことに対しまして、伊佐沢地区の市民の皆様

に深く感謝を申し上げます。

これまで伊佐沢地区で運行されていた住民バスは、地区内全世帯で各戸3,000円以上のご寄附、ご負担をいただいて、独自にレンタカーを借り上げながら、運賃は無料で運行していただいております。住民バスで小学生の利用が始まったのは平成18年度からであり、伊佐沢小学校、伊佐沢地区交通確保対策協議会、地区公民館、保護者の皆様が協議した結果、バスの空席の有効活用も兼ねて、小学校から遠い地区に住んでいる低学年児童に限り住民バスの利用が認められたというふうにお伺いしているところでございます。

住民バスにかわり、ことし7月から伊佐沢地区にも市営バスを走らせる計画であり、できるだけ小学校の下校時間に合わせ運行をしようと

いうふうに考えておりますので、安全に下校してもらおう観点では、住民バス同様に小学生にも乗っていただければありがたいなというふうに思っております。

竹田議員からのご提言であります、小学生の運賃を無料ということについては、伊佐沢地区の小学生、これは小学生は低学年なのか6年生まで全部利用できるようにするのかということもありますが、これは、実はほかの地区でもそういったことは課題になっておまして、平野地区も一部あるかと思うんですが、西根地区、豊田地区でございます。そんなことで、伊佐沢地区の小学生だけを無料化するというわけにはいかないと思いますので、そうしますと、小学生全員を無料にするといえますと、今度バスが小さいので、なかなか課題もあるのかなというふうに思っております、これらについては少し検討をさせていただきたいと思っておりますし、学校側あるいは保護者からのご意見なども伺って実施しなきゃいけないんじゃないかなと。

竹田議員おっしゃることは、冬期間、特に遠いところだと、やはり4キロぐらいはあるんだというふうにお伺いしていますんで、そこを1人の小学低学年が歩いて帰るとするのは危険だという観点でございますので、そこらについてどういうふうな形がいいのか、ぜひ検討をさせていただきたいと思っております。

あと、スクールバスの使用については、これは管理課長のほうから答弁いたさせます。

次に、2点目の市教育振興計画についてでございますが、私のほうからはメンバー構成、また中学校2校、小学校6校の考え方に変わりはないのかということでございますが、教育振興計画は教育委員会で作成しているものでございますので、メンバー構成についてや計画の内容等の詳細は、私のほうでは権限がございませんので、教育長から答弁あるものというふうに思っています。

私からは(2)の、いわゆる小中学校の統廃合に関する現在の小学校6校、中学校2校の考え方でございますが、これは以前にも特に伊佐沢小学校が複式学級化したということで、長井小学校と一緒に学ばせたいという意向が強いのではないかと、格差のない教育、視野の広い学習の重要性を第一に考えるべきじゃないかというご提言でございますが、これらについて、再度教育委員会のほうにお願いして、まずは伊佐沢小学校の保護者と学校側、また、伊佐沢地区もあるかと思っております教育振興会、それから地区公民館、もちろん地区長会等とのちょっと意見をお聞きしながら、大部分の方が、これはもう伊佐沢も統廃合を考えなきゃいけないというようなことであれば、ぜひ具体的に進めなきゃいけないと思いますので、その後、私のほうでは特に教育委員会のほうにはお願いはしていませんが、複式学級が今後もまたそういう再び何年後かになる可能性も高いので、そういったことも含めて保護者、地域の心配はごもっともでありますので、竹田議員のご提言によりまして、ぜひ教育委員会のほうに、そういった保護者を含めた地域の皆様の声を聞いてどうするか、少し検討いただくようお願いしてまいりたいと思っております。

私からは、以上でございます。

○小関勝助議長 加藤芳秀教育長。

○加藤芳秀教育長 竹田博一議員のご質問にお答えいたします。

教育振興計画についてのご質問がございました。まず、メンバー構成でございますが、教育振興計画の検討に当たって、5つの委員会で検討いただきました。5つの委員会から各2名の代表を選んでいただき、この代表と5名の教育委員で構成する教育振興計画検討委員会合同会議を経て、このたびの教育振興計画を策定いたしました。

5つの委員会とは、学校教育部門検討委員会、

社会教育委員会、文教施設関係整備計画検討委員会、スポーツ審議会、体育施設関係整備計画検討委員会とそれぞれの分野ごとにご検討いただき、全体的な部分を合同会議で検討いたしました。

学校教育部門検討委員会では、施設整備を含めた学校教育について、7名の委員の方をお願いして検討をいただきました。委員長は、致芳小学校の倉持宏幸校長先生、副委員長は、教頭先生を代表して、伊佐沢小学校の浅田道夫教頭先生、委員は、長井市PTA連合会会長の菅野昭浩さん、長井小学校PTA会長の吉田重成さん、長井小学校主幹教諭の目黒孝博先生、長井北中学校教諭の今泉寿子先生、児童施設代表として豊田児童センター園長の大沼久美先生の7名の方をお願いして検討いただいたところでございます。

それから、市教育振興計画の中で、今、伊佐沢小学校の複式に伴ってのご質問にかかわってお答えいたします。

ご質問の山形新聞に掲載された、今後10年間は小学校6校、中学校2校を堅持するとの記事は、現在、策定中の教育振興計画の第2編、第1章、第8節の教育施設整備計画に記載されている内容の一部でございます。

第8節では、学校施設と調理場の整備計画に関することを述べておりますが、推進の方向性の①として、学校関係施設整備の前提となる市内小中学校数については、本計画の終期である平成35年度までは現行の小学校6校、2校を堅持していきますと記載しております。これを要約する形で新聞に掲載されたものと思います。

8節では、市内8つの小中学校の大規模改修工事などについて、今後10年間の計画を記載しておりますが、現段階において、統廃合等が決定している学校がないということを受けて、そういう全ての小中学校に改修整備を行っていく必要があるという、その認識のもとに小学校

6校というふうに記載となったものでございます。

また、小学校の数については、平成21年度に長井市小学校将来構想検討委員会を立ち上げてご検討いただいて将来構想が出され、それを受けて教育委員会では、今後10年から15年程度は現行のまま推移することが望ましいとの方針を打ち出されておりました。そのことを受けたということがございます。

それぞれの小学校で進められている地域とかかわり深い教育は、長井の心を育む、10年間の振興計画の目標を達成する上でもその方針を受け継いでいく必要があるというようなことだと判断しております。

今後、児童数の減がさらに進んだ場合、小学校の統廃合の問題については本当に保護者、地域の意向を最大限に尊重しながら、慎重に進めることが求められるんでないかというふうに考えております。

今回ご質問にありました、教育振興計画の小学校6校を堅持するとの文言については、あくまでも整備計画を進める上での前提条件として述べているものでございまして、保護者や地域の皆様の声を否定すると、そういった意味合いのものではございません。あくまでも保護者、地域のご要望等を受けながら、十分にその意を酌んで対処してまいりたいというふうに考えておりますので、ご理解をいただきたいというふうに思います。

○小関勝助議長 鈴木一則企画調整課長。

○鈴木一則企画調整課長 私からは、市営バスに関しまして、下校時におけます小学生のバス運賃を無料にする場合の課題ということがございますので、そちらについてお答えをさせていただきたいと思っております。

まず、法的には長井市地域公共交通会議、会長が遠藤副市長でございますが、こちらのほうに諮問し、承認されれば対応は可能というふう

なことになります。しかし、現実的には、次の3つの課題がございますので、これをクリアしていく必要があるということです。

まず、第1の課題としては、運賃無料の小学生の利用という部分では、想定される数が特定できませんので、今現在考えておりますのが、今、伊佐沢バスのほうでは、冬期間のみの部分につきましては、レンタカー29人乗りで運行されていますので座席等に余裕がございますが、今回新たに導入いたします市営バスについては、事前の調査で14人乗りの車両を導入する予定をしております。ですので、この座席の余裕がその時間帯にあるかどうかということになるかと思えます。

それから、第2の課題として、伊佐沢小学校の運賃の無料を認めた場合ということで、先ほど市長からもお話があったように、他地区からにも冬期間やそれから夏期の遠距離児童についてのスクールバス利用というような形で行っているところもございますので、これが市営バスのほうに振りかえ等になりますと、無料関係の部分についてはそれぞれ調整が必要になってくるというふうなことで、当然これも座席の数が足りるのかどうかというふうなことも出てまいります。

それから、3つ目として、複数の地区の小学生を対応するという公平性からすると、お乗せするとすれば、いわゆる学校の時間帯がございますので、下校時間帯の、それに運行ダイヤを合わせるというふうなことがありまして、本来、地域の足というふうな形で、小字単位で回らせていただいている部分もございますので、なかなか運行ダイヤというふうな部分では非常に調整が相当難しくなってくるというふうな、今考えられるところでは3つほど課題がございます。

また、運賃が制度的に無料の今現在のバスにつきましては、運行ダイヤが自由に設定ができるところがございますが、市営バスのほうは交

通会議のほうで承認と運輸局の届け出も必要になってくるということで、なかなか法規制の関係で規制が厳しいバスになるということで、自由度がちょっと異なるという課題がございます。

市民の皆様のご要望にはできる限りお応えをしたいと考えておりますが、今回のご要望については、現時点ではなかなか市営バスという形ですので、難しさがございます。今、市長が申し上げましたとおり、さまざまな可能性をいろいろ探ってまいりまして、いろいろと検討が必要かというふうに思えます。

今回お示ししたものは案でございますので、最終的には7月からの予定をしておりますので、5月に最終の長井市公共交通会議というところで最終的な決定になると思えます。その前までにある程度概略といいますか、そういうような運行の形態については、議会の皆様にもお示しをしてご理解をいただいた上でというふうなことで、実際に走らせるというふうなことになると思えますので、それまでの間にいろいろと方策をさまざま検討してまいりたいというふうに思えます。

○小関勝助議長 遠藤敏男管理課長。

○遠藤敏男管理課長兼学校給食共同調理場長 私からは、スクールバスの利用状況について、特に現在の状況などをご報告申し上げたいと思えます。

伊佐沢地区から長井南中学校に通学している生徒は現在42名おまして、全員がスクールバス通学の対象者になっております。スクールバスの夏場の代表的な運行時間については、朝は中伊佐沢公民館前を7時35分に出発いたしまして、それから下伊佐沢、芦沢、山田商店の交差点のところ、松木商店で、布施石材のところを経由いたしまして南中学校のほうに登校するということになっております。

下校のほうはですね、第1便は夕方4時5分に南中を出発して、同じルートで帰宅と。第2

便のほうは、部活動が終わる夕方6時45分に南中を出発するというごさいます。冬場についてはもう少し下校の時間が繰り上がったたり、あと行事がありますと、また別なダイヤになるわけでごさいます、あくまでも代表的な夏場の時間ということでご紹介させていただきます。

それから、現在伊佐沢地区を回っている南中の3号車でごさいます、定員が61名です。椅子席が39席でごさいますので、立つお子さんが22人で、フルに乗ってそういったような61名ということになりますので、計算上は19名の小学生の乗車が可能となりますが、南中に聞きましたところ、中学生のお子さんもかばんとか荷物がとても多いので、実際に42名の中学生全員が乗った場合には、余り余裕がないのではないかと。夏場の場合は自転車で通うお子さんもいるので、42人フルに乗るということは少ないようではごさいます、雨の日とかいろんな状況の中で、フルに乗ることは何回かあるというようなことでごさいました。

それから、登下校でスクールバスを利用する基本的な条件、これは市内同じなごさいますけれども、小学生は4キロ、中学生は6キロメートル以上の遠距離から通学する場合に乗車することというふうにしてあります。ただ、それ以下の距離であっても、いろんな実情をしゃくして乗車させている例もごさいますけれども、4キロ未満の小学生については、冬期間の朝、登校時に定員に余裕がある場合に限って乗車させているという実情にあります。もちろん遠く、4キロ未満でも比較的遠いお子さんという意味でごさいます。登校時のみとしているのは、下校時の運行ダイヤを小学校用に組むというのが非常に難しいためにごさいます、いずれにしてもスクールバスは遠距離通学をする児童生徒のために運行することを目的に配備しているということをご理解いただきたいと思ひます。伊佐沢小学校の場合ですが、今、

通っているお子さんで最も遠いお子さんでは、2キロを少し超える程度の距離にあるというふうに聞いてあります。

なお、今年度はそうなんですけども、竹田議員さんのお宅が学校から3キロちょうどぐらいでいらっしゃいますんで、3キロを超えるお子さんが通うときもあるのかなというふうには思っておりますが、これらさまざまな状況を考慮しながらスクールバスの運行を検討していく必要があると考えてあります。以上でごさいます。

○小関勝助議長 6番、竹田博一議員。

○6番 竹田博一議員 それぞれご答弁ありがとうございます。

伊佐沢住民バスについては、きのう安部議員から、レンタカーでの運行について詳しく説明がごさいましたが、そのレンタカーを使う前、12年間も前に山交バスを利用しているんです。山交バスをチャーターして、昭和60年の5月に山交の路線バスが廃止になりまして、廃止になりましたので、これじゃとてもバスが来ないと大変だということで、その年の12月18日から山交バスで冬期間のみ運行開始しました。12月の18日から3月の31日までの運行の予定でしたが、利用者が大変多くて、4月の19日まで延長したというふうに聞いてあります。

そのときのバスは28人乗りの中型バスで、運転手さんは山交のプロの方です。1日3万1,000円だったそうです。それが1日4往復で3万1,000円。各戸1,000円ずつ協力金をいただきまして、そしてそのバスは無料じゃなくて、100円から300円の間料金制だったというふうにあります。昭和61年から平成3年まで会費1,000円でしたが、ちょっとお金が大変になりまして、会費が1,200円に上げたそうです。その間、60年から平成8年まで12年間の間、山交バスを利用しましたが、市からの補助金として60万円から70万円はいただいたと、1年にですね。そのおかげで12年間運行できたというふう

に思っております。この場をおかりして、本当にありがたかったなというふうに思っていることであります。

その後、平成9年12月20日から2月20日まで協力金1,500円でありましたけども、市からの補助金がだんだん厳しくなりまして、山交バスを運行するのが困難になったため、レンタカー借上げの自主運行に切りかわったということでもあります。そのときには、運転手はシルバー人材センターからお願いしました。平成10年12月から1,500円でずっと運行したんですが、それでもだんだん予算的に足りなくなりまして、平成11年からは2,500円に値上げ、そして、平成12年からは3,000円になった。平成13年からは3,000円以上というふうにだんだんと値上げせざるを得なかったということでございます。

25年度をもって住民バスの運行を終了することです。ちょうどあした最終バス、26年の3月7日まで運行して、29年間のバス運行の歴史が終わるということでもあります。本当に29年間にわたり、温かいご支援、本当にありがとうございました。

そして、それから話は変わりますが、質問に移りたいと思います。

通学距離4キロまでは登校、歩かせても文句はない。文句と言うか、何も規定には外れてはいないんだというようなことではありましたけど、あれは学校を中心にしてコンパスでくると、4キロのところをくると丸っこくしてるわけで、道っていうのは真っすぐじゃないんですから、こうなってこうありますから、それは少し違うんじゃないかなというふうに思いますが。今お話聞くと、4キロでなくても遠いところ、不便なところは乗せるよと、スクールバスを利用しているんだというようなお話でした。私は、市民バスを小学生を無料にさせていただきました、住民バスと同じような形式で利用したらいいんじゃないかなというふうに思いますが、今、中

学生がバスで行って、小学生が歩いているというような伊佐沢の実態です。こんな小さいね、ランドセルやっしょっている1年生が歩いて、中学生がアノラックも着ないでバスに飛び乗って、手を振っていくんだね、小学生に。そんでね、本当にかわいそうっていうかね、なるんです。なるだけあるものは最大限に使ったほうがいいんじゃないかというのは、私の考えでありますので。

そして、今、世の中が変わってきまして、安心安全の問題が一番、何が起こるかかわからない、今の時代。あんときああしてればなんて後で後悔しても遅いんで、今、何が起こっても不思議じゃない時代ですので、さっきも申し上げたとおり、学童の安全、それから保護者の安心感、それがあれば本当にいいなというふうに思うわけでございます。

それで、保護者が、1年生低学年で、途中まで2人で帰ってくるんですよ、最初は。片方が人が、じゃあさよならってうちに入ると、1人になっちゃうんですね、そこで。ずっと長い道のりを1人でうちまで来なくちゃなんない。小学校のほうからも、いや、それじゃあちょっと安全面では問題があるから、家庭の人、保護者がそこまで迎えに来てくれませんかというようなことで、今、じいちゃんばあちゃん、ただ、いる人ですね、そういう人が迎えに行っているようです。共稼ぎの人は当然行けませんので、そのときはやっぱり学童保育に、ご面倒になって、そして会社が終わってから学童保育していただいたところに迎えに行くというような、行かざるを得ないというようなことでもあります。

今、学童保育はもう満杯状態なんです、伊佐沢地区においては。私もこの前かな、質問させていただきましてけど、あんまり小さい部屋にいっぱい詰めて保育するのもいかなものかというふうに思います。

その点、教育長にお伺いしますけど。あっ、

できないんだ。じゃあ市長にお伺いしますけど、料金については、市内、伊佐沢だけ小学生無料ってことじゃいけませんと思いますので、その点は長井市全体で考えるようにして、子育て支援の面から見ても、小学生は半額ですから、料金的には大した額ではないと思います、私は。その点は見込みがあるのか、その辺お伺いします。

○小関勝助議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

竹田議員が心配されるのはごもつともで、子供はやっぱり地域の宝ですし、長井の次世代を背負っていただくわけですから、そういった意味では、子供たちの安心安全っていうのは最優先されるべきだと思います。

先ほど企画調整課長から答弁の中でありましたように、3つ課題があるということで、その中で一番大きい課題っていうのは、14人乗りなものですから、14人乗りのバスですので、小学生全員乗るっていうことになりまして、これはもう無理な話で。したがって、多分小学校でも1、2年の低学年ですよ、今はもう無料化しているのは。ですから、そこをまずできるかどうか。それでも長井小学校の子供たちとか、ほかのところなんかとてもとても乗れないわけですよ。あと教育上、これは教育長がどういうふうに、あるいは教育委員長がどう判断されるかですが、学校によって考え方が違うと思うんですね。やっぱり必ず歩かせたいと考えているPTA、保護者、あるいは学校側もできるだけ歩いて小学生のうちは通学するんだという考え方などもあると思いますので、そのところはちょっと私の権限で、じゃあ無料にしましょうということもすぐにはいかないのかなと。

あと、教育委員会としても各小中学校、小学校のPTAなり学校側の考え、あと教育委員の皆さんの考え、そういったことなども勘案して決めなきゃいけないことだと思います。竹田議

員のおっしゃることはよくわかるんですが、そんなことで検討させていただきたいと思います。

なお、教育長がよろしいのか、教育委員長の考えがよろしいのかですが、ちょっとじゃあ教育長のほうから答弁をしていただくようお願いしたいと思います。

○小関勝助議長 加藤芳秀教育長。

○加藤芳秀教育長 今、歩く、歩かないかっていう議論であれば、当然子供は、子供だけじゃなくて、やっぱり運動はしたほうが良いとは思いますが。

ただ、安全面という理由でいった場合には、小さい子供がたった1人で寂しい場所を歩くという、あるいは交通面でもかなりあそこは通るわけでありまして、危険が伴うということもございますので、そこら辺のところを両面から考えていく必要があるというふうに思っております。

学童保育については市の当局のほうで考えると思いますけども、スクールバスについては、下校便が2便、伊佐沢には出ておりまして、そのうちの1便だと部活に、余り早い時間なものですから、部活をやっていく子供さんはほとんど乗られていなくて、本当に特別に用があって帰るお子さんであるとか、あと、ちょっと自転車通学がなかなかできないというお子さんとかですね、そういうお子さんが利用しているというふうに認識しています。その部分だとゆとりがあるんです。ただ、冬期間になると全員バス通になるものですから、部活がないときとかってあるんですよ、インフルエンザがはやって部活が中止になるとかですね。それから、3年生になると受験期になりますので、部活をしないで帰るということで、1便が少し込み合うということになってきます。そのようなことで実情がございまして、そこに乗れるかどうかについては検討を要するのかなというふうに思っております。



○小関勝助議長 6番、竹田博一議員。

○6番 竹田博一議員 ぜひ検討をなされて、下校時の安心安全のためにも、ぜひご検討をいただきたいなというふうに思います。

登校時はみんな集団で登校しますので、余り、余りってね、安全面は確保されると思いますが、下校面でよろしくお願ひしたいというふうに思います。

それから、小学校の数でありますけども、教育委員会からおもらいした資料を見ますと、平成30年までの児童数の推移があります。10年間の計画ですが、10年間の中には、まだこれから生まれる人というか、子供も大分、ここもあと5年間、数がわからないんですね。昭和30年以降の児童の数から35まで……。

(「平成だろう」と呼ぶ者あり)

○6番 竹田博一議員 あっ、平成、平成、平成。平成5年間の数が不確定であります。いつがたんと減るかは生まれてみないとわからないことでもありますので、その点、市長はその学校数については、統合については保護者の意見を聞いて、そして検討するよというような意見ですが、これからもその保護者の意見を最大限にお聞きなさって、これからもしていただきたいなというふうに思います。

以上で質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

## 散 会

○小関勝助議長 本日はこれをもって散会いたします。

再開は、明日午前10時といたします。

ご協力ありがとうございました。